

営農情報（水稻）

緊急情報

トビイロウンカの防除について

令和2年8月31日発行
福岡大城農業協同組合

1. トビイロウンカ（秋ウンカ）の発生状況

本年は、トビイロウンカ（秋ウンカ）の発生量が過去10年間で最も多く、8月31日現在で、すでに県内各地で「坪枯れ」が確認され始めました。

福岡県農林業総合試験場（福岡県病害虫防除所）は、8月7日にすでにトビイロウンカの警報も発表している状況です。今後も、ほ場内で急激に増殖し、昨年以上の「坪枯れ」の多発も懸念されます。そこで、適宜ほ場の確認を行い、トビイロウンカの発生が多いほ場では発生抑制のため、以下の内容に従って防除を実施してください。

2. 防除について

①出穂期防除（ヒノヒカリ、ツクシホマレ）

収穫をヒノヒカリ以降に迎える品種については、現在出穂期を迎えているか、今後出穂期となります。可能な限り、下記の出穂期防除を実施し、トビイロウンカの発生量を抑制してください。

体系	薬剤名	希釈倍数
粉剤	ブラシントレボン粉剤DL	4 kg/10a

※液剤を使用する際の散布水量は、10 a 当たり100Lです。

②補正防除（全品種において、トビイロウンカ（秋ウンカ）の発生が目立つ場合）

出穂期以降にトビイロウンカの発生が目立つ場合は補正防除を実施します。

★ 補正防除実施の目安

1株当たり中老齢幼虫及び成虫が5頭以上

速やかに防除を実施する

体系	薬剤名	10a当り散布量	使用回数	使用時期
粉剤	スタークル粉剤DL	3kg	3回以内	収穫7日前まで
液剤	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍/100L		
	スタークル液剤10	1,000倍/100L		
粒剤	スタークル粒剤	3kg		
豆つぶ剤	スタークル豆つぶ	250 ~ 500g		

※ウンカ類は株元に群生するため、粉剤・液剤はできるだけ株元にかかるように散布します。

※薬剤の防除効果を高めるため、湛水状態で散布します。

※地域やほ場で発生状況が異なるため、本田での発生状況を確認して散布します。